

設備投資研究所設立 50 周年記念シンポジウム開催

五十里 寛

■設備投資研究所設立 50 周年

1964 年に日本開発銀行の一部局として設立された設備投資研究所（以下、「設研」）は、本年 7 月 1 日をもって設立 50 周年を迎え、今般、記念事業として約 3 年をかけて準備した論文集 2 冊を刊行し、そのお披露目もかねて 9 月 25 日記念シンポジウムを実施した（<http://www.dbj.jp/ricf/event/symposium07.html>）。

論文集『日本経済 変革期の金融と企業行動』ではこの四半世紀の日本経済を対象として、企業の経営戦略、設備投資などの企業行動、財政、金融政策について考察した。『日本経済 社会的共通資本と持続的発展』は環境社会、都市とまちづくりなどの分野から、わが国のあるべき姿を未来志向の視点から論じた。いずれも設研と関わり深い学識者と研究所員の執筆・編集によるもので、設研の永きにわたる歴史と伝統の上に成り立つものといえる（<http://www.dbj.jp/ricf/research/publication/>）。

■設立 50 周年記念シンポジウム

本シンポジウムでは、3 つのパネルディスカッションと、かつて設研の嘱託研究員を務められた大西隆先生（日本学術会議会長）、岩田規久男先生（日本銀行副総裁）を講師としてお招きした 2 つの特別講演をもって構成した。

パネルディスカッションでは、設研が現在研究対象としている「金融・経済」「経営・会計」「社会的共通資本」の 3 つのテーマについて、各研究部門（金融経済研究センター、経営会計研究室、地球温暖化研究センター）のセンター（室）長がモデレーター役を務め、パネリストには、各分野において第一線で活躍されている先生方にご登壇いただいた。また、コンカレントセッションとして実施した特別講演では、「人口減少時代のまちづくり」（大西隆先生）、「日本経済の現状と金融政策運営」（岩田規久男先生）という、パネルディスカッションのテーマとも密接にかかわる内容についてお話しいただいた。

当日は台風の影響もあり雨模様ではあったが、学識者のみならず、事業会社、金融機関の方々など延べ 300 名を超える来場者をお迎えした。各パネルディスカッションともに多くの参加をいただき活発な議論が交わされたが、その詳細については、次回以降の本欄にてご紹介したい。

なお、本シンポジウムの翌日、設立間もない頃からほぼ半世紀にわたって、中核的な存在として設備投資研究所を支え、大きく育ててくださった宇沢弘文先生の訃報が公表された。設研関係者一同、もう宇沢先生にお目にかかり、親しくご指導いただけないということが信じられず悲痛に耐えない。今はただ安らかに眠りになれることを心からお祈りしたい。

2014 年 10 月 6 日